

ふくらく通信

2013年 第4号 9月18日発行
総号数 64 発行人 菅野香織

残存するものの記憶

(2013年9/6公表の記録加筆し掲載)

気仙沼く陸の船の2年半く

あの日からおよそ2年半。津波で陸上がった大きな船が消えていく。この船は、震災遺構にするよりも解体した方が良いという決断に至った。

気仙沼の鹿折地区。気仙沼湾の一番奥で、津波が町を破壊した。そのため起きた火災も酷かった所だ。

津波の力は凄まじく、港にいた船も陸に打ち上げられた。その船は、ただ普段どおりに働いて、注文に応じて必要とされる人のもとへ物を運んでいたように。津波は、その船の役割さえも狂わせてしまった。

2013/8/17撮影

劣化や費用面からみて、保存が難しいと判断
9/9、解体作業がスタート。



震災遺構
しっかり考えて残したい
大切な心覚え

解体へと動くまで、この船の所有者は胸の痛むことが多々あったようだ。この船も被害にあったもののうちだが、目障りに思われることもあったらしい。船の所有者は、被災の辛さや苦境にある人の思いに寄り添って堪えた。感謝したい。

震災遺構には意味がある。震災の凄まじさと、苦境を乗り越える力を伝え、生きることを考えさせるほかだ。だが、選定を良く考える必要がある。かつてよく人が出入りし、かつての日常を思わせる所や建物が適しているのでは

～魚市場前 リアスシヤークミュージアム～

震災前 2010/7/24 →
水槽に小さなサメ、珍しいサメの卵など、標本や解説が良かった。サメは種類も多く、獺が捕まえたほんの一部。ほとんどはおぼろい。知っているけど知らないサメの話を教わり面白かった。1階は食事や買物ができる市場賑やかだった。



～ふかカツとなりわい興す 気仙沼～ (2013/8/2公表の記録)

周知の通り、気仙沼はフカヒレ産地。ヒレだけでなく、フカ(サメ)の身の加工品も作られ、名物にしようと「ふかカツ」ができた。「復活」とかけた「ふかカツ」で、再興の願いも込められる。生業を取り戻して力をつけ、町を作り直すことを思いながら作った品だ。よく味わい、応援したい。

ちなみに、新鮮なうちに加工するので臭いが少ない。しっとりとして柔らかく、マヨに濃い味わいだ。



震災後 2011/3/29 →



現在 2013/8/17 →
人々の尽力で片付いた。この先はどうか

